



世界の変化とパーパス経営

代表取締役社長 兼 CEO 佐藤 朋由

近年、世界の変化の速度が速くなっていると感じているのは私だけだろうか？

コロナ禍前から、地球温暖化問題を発端に、気候変動枠組条約締約国会議 (COP) で CO₂ 排出削減が論議され、今や先進国毎に色々な思惑を孕みながら各国独自の規制が導入されています。加えて、サステナビリティへの意識が高まり、SDGs に代表される差別や貧困、人権問題にまで踏み込んだ企業統治が要求される世の中になりつつあります。そんな歴史的变化の中で、新型コロナウイルス感染症が拡大しました。それを引き金に進んだリモートの世界は、IT の進化を加速しバーチャルな世界へ人々を誘い、自宅に居ながら生活のすべてを実現したことで産業構造まで変えたように感じています。半導体不足はそんな産業構造の変遷の中で起こりました。さらに、驚くべきロシアのウクライナ侵攻は当初の予想に反して長期化し、エネルギーや穀物等の資源問題まで引き起こして世界中のインフレを誘発しています。VUCA の時代と言われて久しいですが、最近では短期間に様々な激しい変化が起こり、時間まで巻き込まれて将来が見通し難しくなっているように感じます。

社長となったこの一年間、今後の企業はどう生き残ればよいのか、と自問自答する日々が続いています。明確な未来は見えなくても、行くべき方向は見えるのではないかと？ 変化が速ければ、変化についていく体力・組織力を身に付ければ良いのではないかと？ むしろ自ら変化を起こしてしまった方が楽ではないかと？ と。

このような背景の中で、ジヤトコは今年度企業理念を見直し、新たに「技術と情熱でモビリティの可能性を拓げる」というパーパスを、企業理念の大きな柱として掲げました。予測不能な航海の先行を示す羅針盤として。また、変化を感じ変化を創り出すための拠り所として。速い変化の波に翻弄されることなく、向かうべき方向を見失わずに進むために、ジヤトコが社会に存在し貢献する意味を明確にすることで、社外の皆さまにジヤトコの価値をより理解していただけるように、また従業員が自社や自らの仕事に誇りを持てるように、そして何より変化の前に立ち自ら変化を起こすことを目指して、

このパーパスを掲げたのです。

ジヤトコテクニカルレビューは、今号で第22巻となります。技術は我々の誇りとする大事な競争力の源泉ですが、当社も従来のAT/CVT技術に加え電動化技術やDXへと、その技術の範囲を拡げつつあります。このジヤトコテクニカルレビューも、「モビリティの可能性を拡げる」技術を取り上げていきますので、読者の皆さまにもその変化を感じていただければと思います。

世の中の、歴史の大きな流れは簡単には変えられません。しかしその流れを理解することはできます。流れに抗わず、理解し、情熱をもって新しい技術を追求し、その技術で新しいモビリティの世界の実現に貢献する。

「技術と情熱でモビリティの可能性を拡げる」というパーパスのもと、ジヤトコは変化を起こし続けていきます。